

**風格と華やぎの  
まち歩きギャラリー**

人と公共交通優先の歩いて楽しい四条通

市民による自治120年

京都市  
CITY OF KYOTO

## 御挨拶



京都市長 門川 大作

## お祝いの言葉



四条繁栄会商店街振興組合  
理事長 野村 清孝

### より歩きやすく、より楽しい四条通に！

歩道の拡幅完成からもうすぐ3年。広くなった四条通の歩道がこの度、地上機器の移設と美装化により、更に歩きやすく、楽しい空間へと生まれ変わりました！

多くの皆様の御理解と御協力の下で進めてきた「人と公共交通優先の歩いて楽しい四条通」歩道拡幅事業は、平成27年10月、構想から約10年の歳月を経て拡幅工事が完了しました。以来今日まで、多くの方々から「ゆったりと歩けるようになった」「まち歩きを楽しめるようになった」との嬉しいお言葉を頂戴しています。また、数々の権威ある学会賞等を受賞するなど、本事業は各方面からも高い評価を頂いています。

しかしその一方で、歩道の中央に残された一部の地上機器が安全面や景観面で課題となっていました。そこで本市では、四条繁栄会商店街振興組合の皆様や京都市立芸術大学の先生や学生たちと検討を重ね、歩行者の安全対策に加え、まち歩きがより楽しくなるアイデアを捻出。そしてこの度、芸大生のデザインによる、京都の四季の移ろいや景観などを描いた磁器板の地上機器美装化が実現したのです。組合の皆様や芸大の皆さんをはじめ、これまでお力添えをいただいた全ての皆様に厚く御礼申し上げます。

本市といたしましては、今後も京都のメインストリートである四条通の更なる活性化に努めるとともに、この事業の成功を大きな力に、「歩くまち・京都」の実現に引き続き全力で取り組んでまいります。皆様の一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

### 華やぐ四条通

平安建都による四条大路の開通以来、私たちの街は幾多の変革に挑戦してきました。近代では、明治末から大正にかけて「京都三大事業」として行われた四条通の拡幅・市電敷設は、今日の街の基盤を形づくるものがありました。

また、古くから栄えたこの街で、商売人140名が集まって「京都四条繁栄商業組合」を立ち上げたのは昭和8年(1932年)のことです。共同の売り出しや宣伝、照明、散水、配達などの諸事業に取り組み、昭和43年(1968年)、現在の「四条繁栄会商店街振興組合」に衣替えした後は、「風格と華やぎのメインストリート」をコンセプトに、様々なまちづくりに取り組んで参りました。

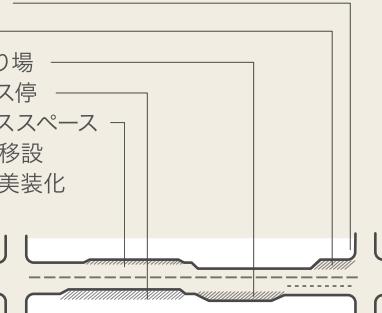
なかでも、平成14年度の地区計画策定、平成15年度の内閣府「都市再生モデル調査」などから発した「四条通の歩道拡幅」の試みは、組合員、周辺地域の皆様、京都市・京都府警をはじめとする関係機関など多くのご支援ご協力により実現した大事業です。

当組合は今年、設立50年を迎ました。記念すべきこの年に、歩道拡幅に係る一連の事業の集大成として、華やかに美装化された地上機器が完成しますこと、誠に喜ばしく思います。京都市はじめ関係者の皆様に、改めまして御礼申し上げます。

市民や来街者の皆様に愛される商店街を目指して、今後とも組合員一同、尽力して参る所存です。引き続きのご指導・ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

## 事業概要

- 事業名 「人と公共交通優先の歩いて楽しい四条通」歩道拡幅事業
- 事業期間 平成25年5月～平成30年8月
- 事業箇所 四条通(烏丸通～川端通)
- 整備内容
  - (1)歩道の拡幅
  - (2)左折車線
  - (3)タクシー乗り場
  - (4)テラス型バス停
  - (5)沿道アクセススペース
  - (6)地上機器の移設
  - (7)地上機器の美装化

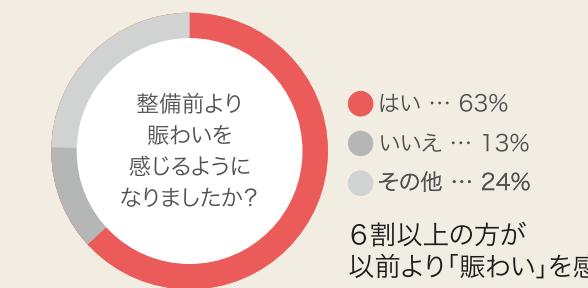


## 事業の効果

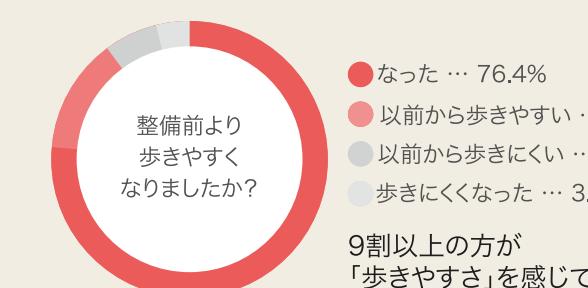
- 四条通の歩行者数の推移



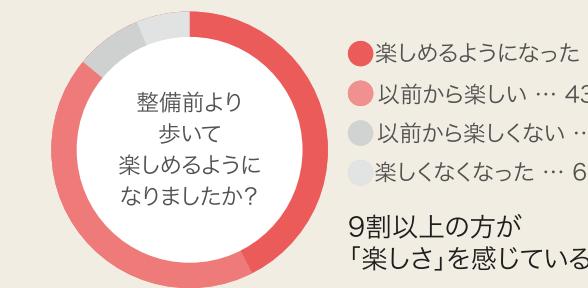
- 四条通の「賑わい」の変化



- 四条通の「歩きやすさ」の変化



- 四条通の「楽しさ」の変化



## 学会賞等 受賞経歴



- 土木学会技術賞
- 国際交通安全学会賞
- 日本都市計画学会石川奨励賞
- 全国街路事業コンクール会長賞

## 四条通のいま



※地上機器の美装化：地上機器上部に、京都市立芸術大学がデザイン、制作を行った磁器板を設置【磁器板デザインの配置は裏面のとおり】